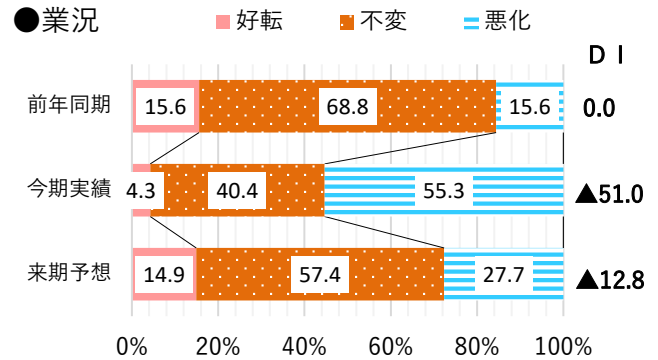


製造業

業況、売上、採算

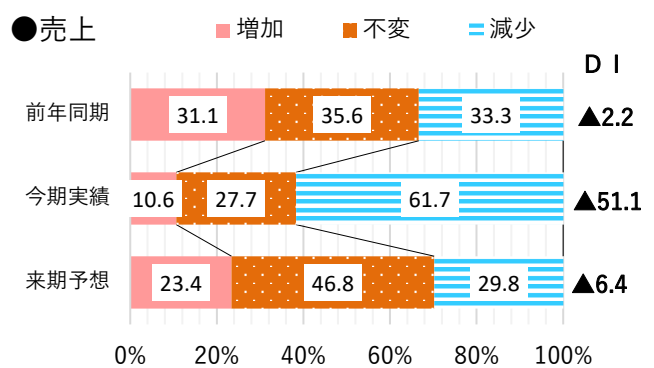
今期(2020.7~9)の業況判断DIは▲51.0で、前年同期(2019.7~9)と比べ51.0ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期(2020.10~12)は、業況の悪化傾向が大幅に弱まると予想しています。



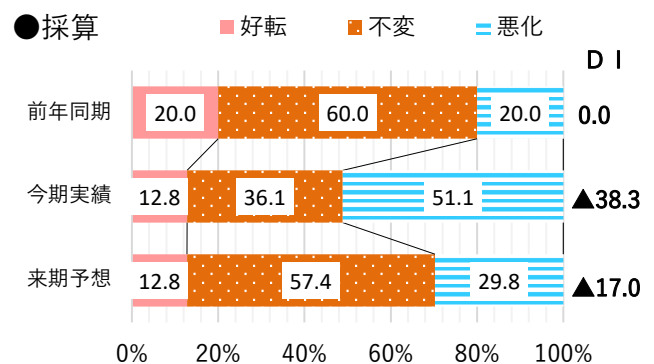
今期の売上DIは▲51.1で、前年同期と比べ48.9ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、売上の減少傾向が大幅に弱まると予想しています。

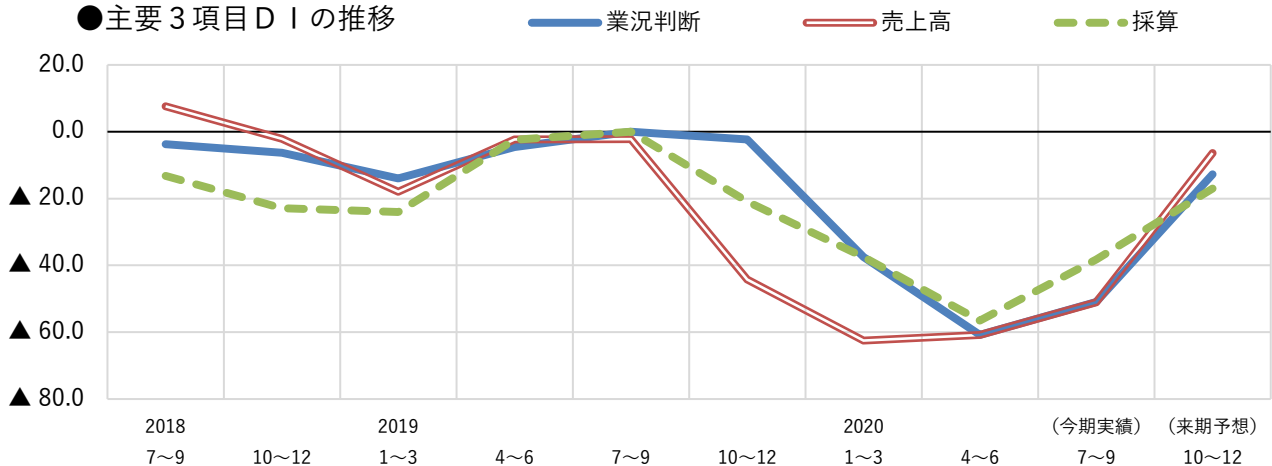


今期の採算DIは▲38.3で、前年同期と比べ38.3ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



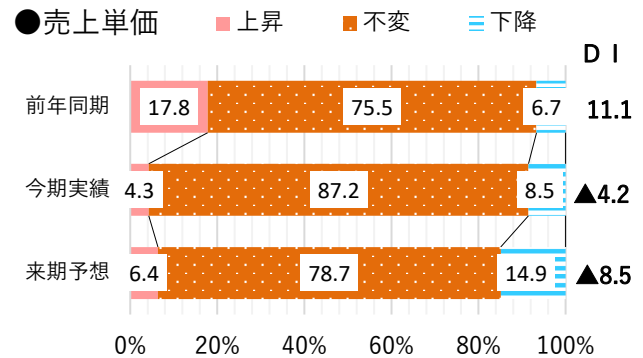
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

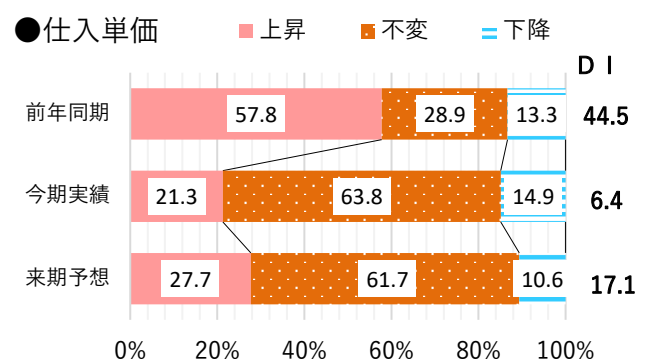
今期の売上単価DIは▲4.2で、前年同期と比べ15.3ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、売上単価の悪化傾向が強まると予想しています。



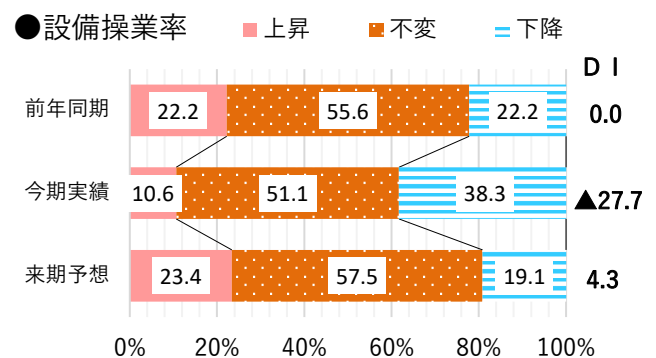
今期の仕入単価DIは6.4で、前年同期と比べ38.1ポイント低下し、大幅に下降しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲27.7で、前年同期と比べ27.7ポイント低下しました。

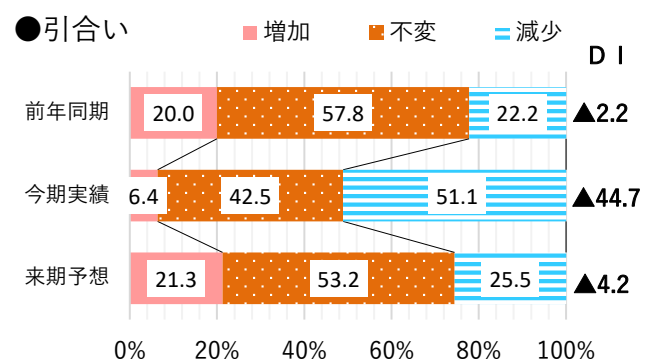
来期は、設備操業率が大幅に上昇すると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲44.7で、前年同期と比べ42.5ポイント低下し、大幅に減少しました。

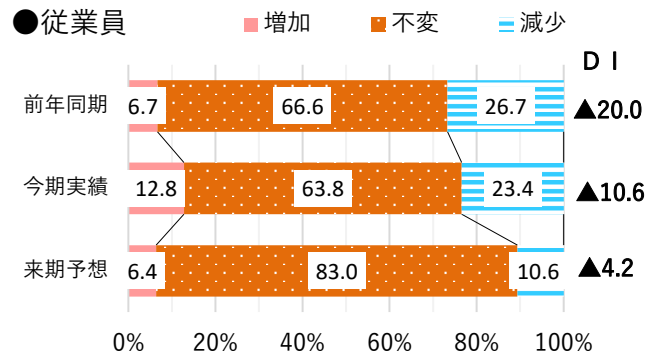
来期は、引き合いの減少傾向が大幅に弱まると予想しています。



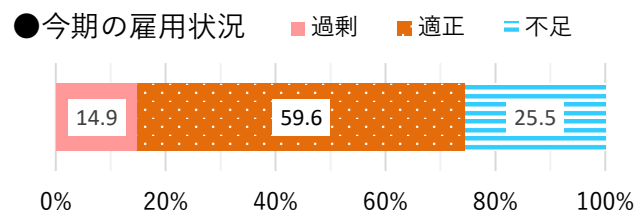
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲10.6で、前年同期と比べ9.4ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は14.9%、適正であると回答した企業の割合は59.6%、不足していると回答した企業の割合は25.5%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の44.6%を占めています。

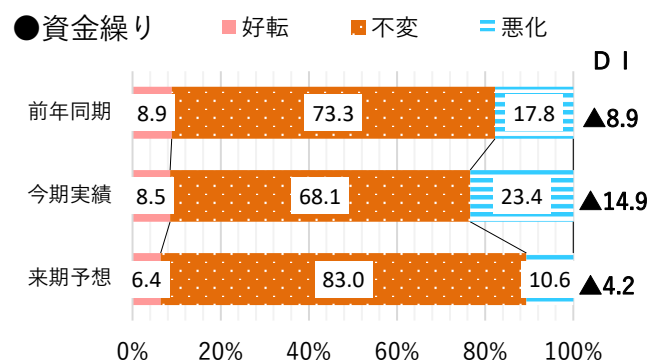
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	4
	不足	1
不変だった	過剰	5
	適正	21
	不足	4
減少した	過剰	1
	適正	3
	不足	7

資金繰り、設備投資

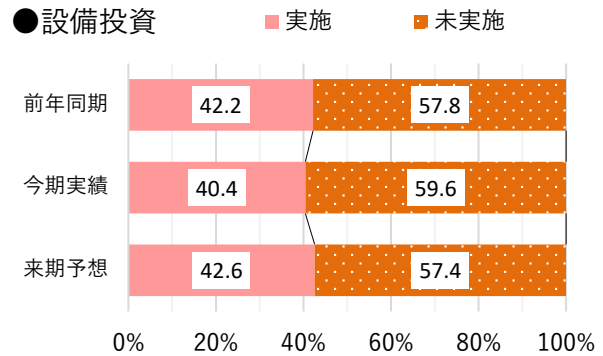
今期の資金繰りDIは▲14.9で、前年同期と比べ6.0ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



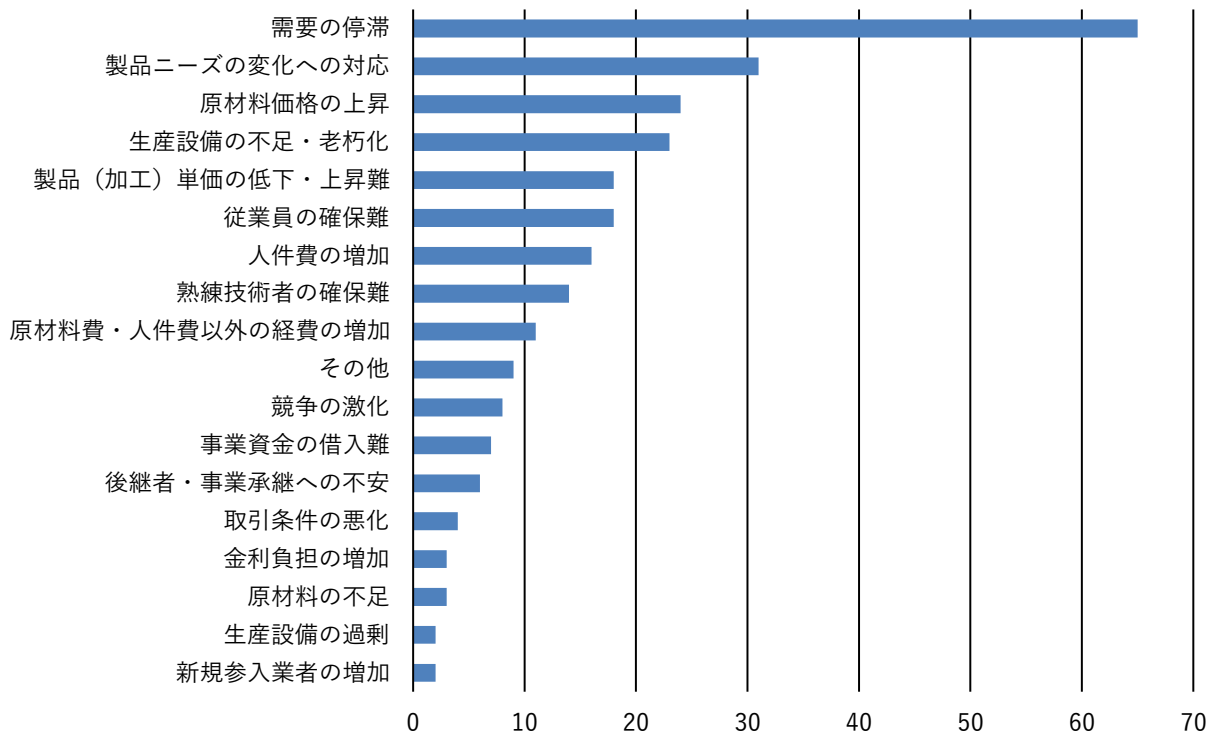
設備投資を実施した企業の割合は40.4%で、前年同期と比べ1.8%減少しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は42.6%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「製品ニーズの変化への対応」、3位が「原材料価格の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上は増加し、本年度のピークとなった。金属関係の原材料単価の上昇傾向が報道されているが、自社はまだ影響を受けていない。（金属製品）
- 前期と比べ切板需要は増加傾向だが、製缶類の引合いと受注は伸び悩んでいる。（金属製品）
- 鮭定置網漁が不良のため、業況は悪化した。（金属製品）
- 顧客、仕入先共に状況に変化はない。（金属製品）
- 新型コロナウイルスの影響で、取引先が操業日数を減らし、設備計画を先送りしているため、売上が減少した。（機械器具）

- 原材料仕入価格は、ナフサの価格に連動したため下降した。新型コロナウイルスの影響で、食品関係商品の売上が減少した。（プラスチック）
- 建築業者からの受注が減少したが、他業種からの受注は増加した。（プラスチック）
- 新型コロナウイルスによる影響は小さいほうだと思う。（プラスチック）
- 新型コロナウイルスの影響により、観光土産品関係の紙製容器需要と段ボール需要が低下しており、売上が減少した。原材料仕入単価は取引の都度値下げ交渉をしているが、前期とほぼ変わらない。（紙製品）
- コロナ禍の中、需要の停滞が続く。（紙製品）
- 景気の低迷が実感されるようになった。（ゴム製品）
- 新型コロナウイルスによる売上の減少が続いている。（医薬品）
- 新型コロナウイルスの影響で、受注が減少した。（衣服）
- 新型コロナウイルスの影響が徐々に現れている。大手との商談ができず、見込売上高が減少した。特殊原料の価格上昇や仕入難のため、生産量が不足している。人材は採用しやすい状況にある。（食料品）
- 新型コロナウイルス感染症の影響は甚大で、5月に最低水準まで低下した売上は現在回復傾向にあるが、対前年比では30%程度であり、十分に回復できていない。（食料品）
- 天候不順とコロナ禍の影響で、飲料等夏物商品の売上は前年割れだった。お盆商材は辛うじて前年並みの売上となったが、全般的な消費の弱さは変わらない。（食料品）
- 前々期に販売を開始した加工品の売上が堅調に推移した。主力原材料の生産量減少と、仕入単価上昇に伴う仕入数量抑制により資金繰りに余力がある。（食料品）
- 新型コロナウイルスの影響で、売上が見込める得意先と見込めない得意先が明瞭になった。新型コロナウイルスの影響は長期化するだろう。（食料品）
- 製造業者向けの売上が約80%減少したため、スーパー等小売店向けの売上だけでは歯止めがかからず、今後の見通しが立たない。（食料品）
- 売上は前年同期比96%となった。原材料仕入価格が上昇した。平均2%の賃上げを実施した。（食料品）
- 原材料仕入単価が上昇した。短期雇用の人材は確保できたが、正社員が不足している。（食料品）
- 取引先が内食、外食ともに取り扱っているため、売上は大きく落ち込まなかった。（食料品）
- コロナ禍の中、巣ごもり需要によって売上の落ち込みを最小限に押さえることができた。（飲料）

[来期の業況について]

- 本州では原材料価格引き下げを求める圧力が強まっており、北海道も影響を受けることが予想される。製缶需要は今期同様不透明である。（金属製品）
- 工期の延期により、年度当初の予定より売上の減少を見込んでいる。コロナ禍によって中断していた案件が再開する予定である。（金属製品）
- 当社が影響を受けている業界の設備投資額が減少し、業況は悪化すると思われる。（金属製品）
- 鮭定置網漁の状況に左右される。（金属製品）
- 新型コロナウイルス終息の兆しが見えない限り、好転は見込めない。（機械器具）
- 原材料仕入価格の上昇を見込む。工事関連の受注は減少するだろう。（プラスチック）
- 建築業者からの受注の動向は見通しが立たない。（プラスチック）
- 紙製容器と段ボールの顧客開拓、販売拡大の結果が出始めるとされる。原材料仕入単価の値下げは、販売拡大上必要なものについて強力に要請し、加工賃の確保につなげる。人員は過剰気味のため、削減を検討する。（紙製品）
- 新総理大臣のもとでの経済政策に期待している。（紙製品）
- 新型コロナウイルスの状況は予測できない。（ゴム製品）
- 新型コロナウイルスによる不況からの回復を見込むが、部分的なものに留まるとされる。（医薬品）
- 売上の見通しが全く立たない。（家具建具）
- 新型コロナウイルスの影響で営業活動、打合せが不十分なため、予測がつかない。（その他繊維製品）
- コロナ禍がいつまで続くのか不安である。オリンピックに向けた数百万人分の食材が余剰となり、営業冷凍庫に空きが無いとの情報がある。どこまで景気が停滞し、不景気となるか見当がつかない。（食料品）
- 主力製品の需要が高まる時期のため、売上の増加を見込む。仕入単価、仕入数量はほぼ確定しており、販売単価の引き上げを予定している。コロナ禍の影響は不透明である。（食料品）

- 北海道物産展、本州のアンテナショップに動きが出てきたが、力強さは感じられず、年末商戦に向けた見通しも立っていない。（食料品）
- 例年並みの売上を見込む。原材料価格は若干下降するだろう。平均2%の賃上げを予定する。（食料品）
- 取引先の主原料である水産物の確保が難しくなっており、業況への影響が予想される。（食料品）
- ネット通販事業を本格化させる。売上を期待している。（食料品）
- 閑散期に入る。例年と同程度の売上を予想する。（食料品）
- 繁忙期に入るが、見通しが立っていない。（食料品）
- 設備増設による生産性向上に取り組む。（食料品）
- 新商品による売上の増加が見込めるが、新型コロナウイルスの感染拡大ならびにインフルエンザの流行期に入るため、不安要素も多い。今期の落ち込みを挽回できるよう、新しい販促策を企画したい。（飲料）